

# ストップ! ザ ハツ場ダム

ニュース 群馬(24)

ハツ場ダムをストップさせる群馬の会

代表 浦野 稔 事務局長 鈴木 庸

TEL 027-224-8567 FAX 027-224-6624

## 総会のご案内

6月20日(日)午後2時より、群馬県庁昭和庁舎35会議室にて総会ならびに報告集会を開催いたします。お誘いあわせの上多数ご参加くださいますようお願いいたします。また、現在、活動資金にたいへん困っております。会費納入並びに寄付に協力いただけますようお願い申し上げます。

### 第20回 裁判の目々～控訴審の状況～

平成22年5月吉日

ぐんま市民法律事務所 弁護士 福田寿男

去年平成21年6月26日に前橋地裁で判決が出て、控訴してから約11か月が経ちますが、群馬の事件はまだ東京高等裁判所での手続が始まっていません。このような事態は異例ですが、去年の政権交代・国交大臣のハツ場ダム中止宣言のため、裁判所が経過を静観しているためだと思われまます。

6都県で最も地裁判決の早かった東京事件は、去年平成21年5月11日の判決で、去年9月16日に東京高裁で第1回進行協議(進行協議とは、読んで字の如く、今後の訴訟の進行について当事者と裁判所が協議をする期日です。)、12月25日に第2回進行協議、今年4月16日に第3回進行協議をし、今年9月10日に第4回進行協議を予定しています(法廷期日は未定です。)

群馬事件と地裁判決日が近かった水戸事件は、去年平成21年6月30日の判決で、今年4月15日によりやく第1回進行協議をし、今年9月9日に第2回進行協議を予定しています(法廷期日は未定。)

千葉事件は今年平成22年1月19日に判決が出て、今年の6月に控訴理由書を提出することになっています(進行協議・法廷期日いずれも未定。)

群馬事件もそう遠くない将来、東京高裁での手続が始まるものと思われまますが、そこでは、上流堤防の実地調査及び治水有識者会議の資料、複数の学者意見書の提出等々により、より充実した訴訟活動が期待されるどころです。以上

## 会費納入と寄附のお願い

ハツ場ダムをストップさせる群馬の会は皆さんの会費と寄附により活動をしております。ご協力お願いいたします。振込先は下記のとおりです。

(振込先) 郵便振替口座 00150-2-356373 (加入者名) 鈴木 庸

## 【1都5県住民訴訟裁判の日程】

栃木	6月10日(木)午前11時	宇都宮地裁	302号法廷	(口頭弁論)
千葉	6月20日(日)までに控訴理由書提出			
埼玉	7月14日(水)午前11時	さいたま地裁	105号法廷	(判決)
宇都宮	8月5日(木)午後1時10分	東京高裁	822号法廷	(判決)
茨城	9月9日(木)午後4時	東京高裁	第10民事部	(進行協議)
東京	9月10日(金)午後4時	東京高裁	第5民事部	(進行協議)
群馬	東京高裁での手続始まらず。			

## 「ハッ場ダム上流のヒ素問題」

2月11日(木)5時から7時まで前橋総合福祉会館会議室で学習会「ハッ場ダム上流のヒ素問題」が開れました。「隠されてきたヒ素問題とハッ場ダムの行方」について保坂展人さんが国土交通省からのヒヤリングと内部告発により手に入れたデータをもとに話されました。当時県の廃棄物担当だった後藤県議から「品木ダム浚渫土砂廃棄物の管理について」、角倉県議から県議会報告がされました。急な呼びかけだったにもかかわらず80人以上の参加者があり、関心の高さが伺われました。(資料は多少あります。)

## 「専門家に学ばーから分かるハッ場の地質学習会」

4月11日奥西一夫さん(京大名誉教授)、中川鮮さん(地球環境研究所代表)の専門家を迎えて、午前中現地のフィールドワーク、午後はやんば館で学習会が開かれ、約70人の参加者がありました。造成した、あるいは造成中の5つの代替地それぞれに地質上問題があることが改めて再確認~報告されました。ダムを造り水を入れても危険、ダムなしでも極端に切り土・盛り土された造成地は危険であることが分かりました。主催者のハッ場あしたの会と「ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会」は、川原湯地区の打越代替地は「宅地防災マニュアル」に基づく安全性の検証がされていないと「ハッ場ダム生活再建問題の早期解決を求める要請書」を前原大臣に提出した。

## ハッ場問題 路線修正期待も冷静 首相交代で地元「予断ない検証を」 6月3日上毛新聞

鳩山由紀夫首相の退陣表明にハッ場ダム中止問題で揺れる長野原町では、人事刷新で中止路線が修正されることへの期待と、「政策変更は期待できない」とする慎重な見方が交錯した。「首相が代わることで民主党のマニフェストが変わり、ダムが実現できれば」。水没予定地の住民でつくる水没関係5地区連合対策委員会の篠原憲一事務局長は力を込めた。前原誠司国土交通相はダム中止表明に対する地元や関係自治体の反発を受け昨年10月、ハッ場ダム事業の是非を「予断なく再検証する」と表明したものの、「中止の方向」との姿勢は崩していない。地元住民は検証が本当に「予断なく」行われるか不安を強めている。高山欣也町長は、首相が交代することを「同じ民主党の政権ならダム政策に大差はないだろう」と冷静に受け止めながらも、「ダム検証で推進に変わる可能性はある」とし、新首相の誕生で「予断なく」検証が行われることを期待する。水没予定地区の農業、町田文雄さん(68)は、今後、政局が混迷する可能性もあるとし「解散、総選挙でダム推進の政権ができればいい」と話した。慎重な見方も多い。5地区連合対策委の萩原昭朗委員長(78)は「新しい政権も結局は民主政権。今後もわれわれはダム建設を訴えていく。それ以外にない」と言葉少なに語った。

一方、ハッ場ダム建設の見直しを訴えてきた「ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会」の関口茂樹代表世話人は、「道半ばだったが、ハッ場ダムを含め公共事業の在り方を大きく改革する方向性を示したことは意味があった」と鳩山政権を評価。次の内閣に対して「中止は民主党がマニフェストに掲げた基本路線。継承しなければおかしい」とくぎを刺す。大沢正明知事は「これだけ混乱していると、ハッ場ダム問題に新内閣がどう取り組むか想像できない。新しい人が来ても問題を理解するまで時間がかかる。前原国土交通相とは人間関係が出来ており、出来れば変わらない方がいいと思っている」と話した。

ハッ場

「談合疑い事例が多数」

市民団体、公取委に調査要請

ハッ場ダム(長野原町)建設事業に負担金を支出する1都5県で活動している「ハッ場あしたの会」など七つの市民団体が28日、国や県が2008～09年度に発注したダム関連の道路建

読売 5月29日

設工事などの入札で談合の疑いが強い事例が多数見つかったとして、公正取引委員会に対し、調査を行った上、独占禁止法に基づき、排除措置など厳正な処分を行うよう請求した。請求は、捜査を求める刑事告発とは異なるが、同法は、公取委が必要な調査を行わなければならないと定めている。公取委に提出された措置請求書によると、国が08～

09年度に行った入札は、88件(総額132億9620万円)、平均落札率94・50%。同時期の県の入札は、83件(総額62億4358万円)、同94・65%だった。そのうち、落札基準に達せず、複数回入札を重ねても、同じ業者が予定価格に最も近い価格で入札を続けるケースが6件あり、いずれも落札率は95%超だった。また、入札辞退などで1社入札となったケースもあり、県の指名競争入札では、51社が指名されたが、落札は10社にとどまってい

た。市民団体はこれら受注の偏りについて、談合の疑いが強いと指摘している。請求書で談合を名指しされたある業者は、読売新聞の取材に対し、「談合はしていない」と否定している。

ハッ場ダム地元「現場を見てほしい」

鳩山政権下で、公共事業削減の象徴として揺れ動いたハッ場ダム(長野原町)問題。菅新首相の手腕に関係者の注目が集まった。「次の内閣でもぶれず

にやっっていくことが大事だ」。前原国土交通相は4日、内閣総辞職を決めた閣議後の記者会見で、政策継

続を求めた。再任は流動的だが、「中止を決めた」で

かな見方が交錯している。長野原町の高山欣也町長は「菅新首相には現場を見て

トされても困るので、前原さんに続投してほしい」と語った。

水没関係5地区連合対策委員長

読売 6月3日(水)

長野原町長「後任期待せず」

大沢知事は「退陣表明はやむを得ない。総理の発言に国民が信頼感を失ったのは不幸なこと。1日も早く新しいスタートを切ったほうがいい」と感想を述べ、鳩山政権の8か月間余りに

「うがいに」と続投を望んだ。一方、長野原町の高山欣也町長は「首相が替わっても、民主党である以上、ハッ場ダムには直接関係がないだろうから、特段のコメ

ントはない」と冷めた見方を示し、「マニフェストも半分ぐらい守られていないので、ハッ場もやがて推進に変わると期待している」と皮肉った。後任については「どなたでも期待はしていない。ただ、内閣が替わったら、次の国交相は前原さん以外がいい」と語った。

長野原町林の主婦篠原富美子さん(49)は、政権交代後、川原湯温泉の旅館関係者を中心に地元が振り回されてきたのを目の当たりにし、「菅さんが総理になっ

待はしないが、ずるずる引き延ばさないで早く行動してほしい」と要望した。一方、建設反対派は中止方針の継続を見守る。「ハッ場ダムを考える1都5県

# 群馬の会の活動報告

浦野 稔

## 2009年12月以降の活動経過

- 2009年12月23日 ハッ場あしたの会、ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会主催 緊急集会 ハッ場のこれからを考えるーダムなし再建への道一に参加
- 2010年1月22日 県議会ハッ場ダム対策特別委員会・専門家等意見聴取に参加  
参考人 新潟大学名誉教授 大熊 孝氏、水源開発問題全国連絡会共同代表 嶋津 暉之氏
- 2月11日 ハッ場ダムを考える群馬連絡会主催 学習会「ハッ場ダム上流のヒ素問題」に参加 講師 保坂 展人氏(前衆議院議員)
- 4月11日 ハッ場あしたの会、ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会主催 フィールドワーク&学習会に参加 講師 奥西 一夫氏(京都大学名誉教授)、中川 鮮氏(元京大防災研究所)、嶋津 暉之氏(ハッ場あしたの会運営委員)
- 5月25日 群馬県から群馬県発注のハッ場ダム関連工事の情報開示を受ける作業に参加
- 5月28日 ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会・ハッ場あしたの会は公取委へ「ハッ場ダム建設事業をめぐる談合に関する措置請求書」を提出、国交省へ談合疑惑改善の要望書提出、国交省で記者会見に参加
- その他・・・ハッ場ダムを考える群馬連絡会(ハッ場あしたの会、群馬県議会議員の会、日本共産党、県教祖、国労、群馬の会などで構成・毎月1回開催)に参加、情報交換や活動状況などを検討、実施してきました。

## (コメント)

昨年6月の前橋地裁での不当判決からまもなく、1年が経過しようとしています。8月の政権交代により前原国交大臣はハッ場ダム本体工事の中止を言明しました。

しかし、政権交代後の初めての12月22日の千葉地裁判決も東京、群馬、茨城の3地裁判決と同様の行政側だけの主張を認め、有害無益なダム計画への参画が違法でないとする不当判決でした。

前原大臣はハッ場ダム本体工事中止理由やダムなしの水没住民の生活再建並びに地域振興の具体案を未だに提示していません。地元水没地の有力者や1都5県知事は依然としてダム建設中止撤回を主張しています。ダム建設中止に向けての具体的進展は見られず、膠着状態が続いています。国交省はダム本体工事以外の関連工事の事業仕分けも行っていない。

問題のある湖面1号橋工事(総工費52億円)の継続を前原大臣は認めてしまいました。ハッ場ダムの利水、治水についての検証を非公開の国交大臣諮問機関「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」の結論に依存することでいいのでしょうか疑問があります。

ダム建設による地滑りの危険性の検証が不十分で代替地、JR 鉄道、国道、県道などの安全性は担保されていません。ハッ場ダム上流のヒ素問題についての改善策が急がれます。また、ハッ場ダム建設事業に関連する談合疑惑の調査要請もしました。鳩山政権に変わる新政権にもハッ場ダム本体工事中止方針の継続とダムなしの地元住民の生活再建策並びに地域振興策の具体案の提示を要請していく必要があります。

間もなく始まる控訴審でも「百害あって一利ない」ダム建設事業への群馬県の参画の違法性を追及して、勝利判決を勝ち取る取り組みをしていかなければなりません。

## 総会ならびに報告集会のご案内

日時 6月20日(日)午後2時～4時

場所 群馬県庁昭和庁舎 35会議室

2:00～ 総会 事業報告と会計報告

2:30～4:00 報告集会

【ハッ場ダム問題の現況報告】

- ・政権交代後の経過と現地の状況
- ・新たに浮上した代替地の安全性の問題

嶋津暉之さん

(ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表)

【ハッ場ダム住民訴訟の現況】福田寿男弁護士

先日お送りしたニュース群馬には、報告集会の中身が掲載されていませんでしたので、はがきでお知らせします。是非周りの方々にお声がけして頂き、多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

〒371-0801 前橋市文京町 1-15-10

ハッ場ダムをストップさせる群馬の会

事務局 Tel. 027-224-8567(鈴木)

---